

## もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	西部県民センター 益田事務所	氏名	黒目 三冬
派遣先 団体名	益田公民館 益田地区振興センター		
<p>① 研修の日時 平成26年10月27日(月)～平成26年11月4日(火) 8:30～17:00 (11月1日(土)～11月3日(月)のイベント中は9:00～16:00頃)</p> <p>② 研修の内容 室町文化フェスティバルと七尾まつりの準備、手伝いを行った。室町文化フェスティバルは今年で7回目になるイベントで、中世に益田地域を治めていた益田氏に関する展示や中世の食事を食べる体験、石見神楽講演などが行われている。益田七尾まつりは明治時代より続く、益田地区の歴史あるお祭りである。メインイベントの大小行司行列、武者行列のほか、ステージイベントや産業祭も行われている。</p> <p>1. 室町文化フェスティバル(平成26年11月1日、2日 グラントワ) 着物と、自分たちが制作に携わった甲冑を着て、花押スタンプラリーの手伝い、お客さんへの声かけ、同時開催されている益田家文書里帰り展の案内を行った。花押は益田氏の歴代当主のもので、スタンプを全て集めた人には記念品をプレゼントした。</p> <p>2. 益田七尾まつり(平成26年11月3日 益田地区内) メインイベントの武者行列に参加した。武者行列は中世に益田を支配した益田氏の時代絵巻行列で、武将や腰元に扮した高校生や地区の方達と一緒に益田小～三宅御土居～幸町を歩いた。</p> <p>3. 事前準備等(平成26年10月27日～31日、11月4日 益田公民館) イベント当日までは、自分たちが身につける甲冑を地域の方(ななお手づくり鎧かぶと工房の皆さん)たちに教えて貰いながら作成した。紙製の鎧のパーツを紐で編んでつなげていく作業、腕に付ける手甲を縫う作業を中心に行った。ひとつひとつに非常に時間を要する複雑な作業であったが、昔の人の手間と知恵を実感することができた。 甲冑制作の合間には真砂地区で行われた、「第4回地域で考える交通確保とまちづくり勉強会」を傍聴し、益田市郊外における公共交通や買い物バスの現状と課題を学んだ。利用者減に伴う公共交通の縮小と郊外における交通弱者への対策、交通確保の将来展望について、住民の意見交換も行われた。</p>			

#### 4. 研修の感想

公民館や地区振興センターの方達と一緒にイベントの準備をする中で、益田の歴史について知らないことを沢山知ることが出来た。東部からの転勤で益田に住んでいる自分には、地区の行事等は馴染みが薄かったので、非常に良い学びの場となったし、地元の皆さんの輪に入れたような気がして嬉しい気持ちになった。

また、公民館の方はもちろん地域の方や小学生など、益田の歴史に本当に詳しく、とても益田を誇りに思っておられることが分かった。だからこそ、七尾まつりを盛り上げようと沢山の甲冑を何ヶ月もかけて手作りしておられるし、沢山の地域の方が室町文化フェスティバルや七尾まつりに参加されていた。

自分の地元でさえ、公民館に行ったり、地域の祭りに参加したり、地域の方と話したり、ということが殆どなくなった。地域の繋がりがどんどん希薄になっていると感じていたが、今回公民館で多くの益田地区の方と触れ合ったことで、まだローカルなコミュニティは健在で、それが地域に活力を与えていることを感じる事が出来た。公民館に出入りする地域の方はそれぞれが顔見知りで、神楽面づくりや茶道、料理などの活動にいきいきと楽しそうに取り組んでおられたのが、とても印象的だった。公民館の方も地域の方も、非常に暖かく私たちを受け入れて下さり、本当にたくさん益田についてお話をして下さいました。地域の方とお話しする機会がなかなか持てなかったもので、たくさんの方とお話が出来たことは、とても有意義な経験となった。

また、今回イベントやお祭りには老若男女問わずたくさんの方が来ておられた。甲冑を着ていると、沢山の方に写真をお願いされたり、甲冑の細部まで見て頂いたりした。これは益田氏や益田の歴史について興味を持って貰うきっかけになったと思う。若年層や、他地域からの転入者にとっては、地域のイベントやお祭りはその地域を知る入り口にもなるので、今後も続いて欲しいし、これから私自身も積極的に参加したいと思った。

